

聖書箇所：ルカの福音書 12 章 13～21 節

説教題：神の前に富む者

1 たとえ話

あるとき、ひとりの人がイエスの所に遺産相続の問題を抱え相談にやってきました。遺産相続に関しては、申命記に定められていました。父親が亡くなった場合、その財産は兄である長子が弟の二倍を引き継ぐというものです。この人は律法に照らし合わせ、自分にも相続する権利があることをイエスに確認しようとしたのでしょう。いつの時代でも人間の悩みは大して変わりません。これと似たようなトラブルは、私たちの身近なところで繰り返されています。

イエスは、ここで一つのとえ話を語ります。内容はあえて説明するまでもないくらいです。あるところに大金持ちの人がいました。これから何年も遊んで暮らせるほど畑は大豊作になったのを見て、金持ちはこう言いました。「さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。」

ところが意外な結末が待っていました。「しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いつたいだれのものになるのか。』」

この金持ちが小躍りしながら人生の幸せを味わった瞬間、おまえは今夜死ぬのだと言われます。たとえ大きな倉を建て、ありあまるほどの蓄えをしたとしても、一生使い切れないくらいの財産を築いたとしても、結局自分のいのちをどうにかすることは絶対にできない。それが、このたとえ話の教えるところ

です。

2 二つの不安のなかで

確かに言われてみればそのとおりです。実際にこれと似たような話をどこかで聞いたことがあります。立派な家を建て、さこれからすばらしい生活をしようと思ったら、まもなくして大きな病気がみつき、死んでしまった。私のご近所にも、定年退職したご主人がいました。その方は、これから思いっきり好きなことをして過ごそうとはりきっていたそうですが、あるときばったり倒れ、そのまま亡くなったのだそうです。

そんな話を聞いたときに、「やっぱり命あつての物种。健康が一番」と思います。今日一日健康で元気に過ごせたことがすばらしいものに思え、感謝が湧いてきます。けれどもそれは長続きしません。次の瞬間、やっぱりもっともっと蓄えがあればと、先ほどの不安がよみがえってくる。そんなことを繰り返しています。

このように考えてみると、私たちは二つの不安の中で揺れ動いていると言えるのかもしれない。できるだけたくさん蓄えをしなければならぬという不安と、いつ死んでしまうのだろうか。この二つの不安です。

必死に努力すれば、蓄えはもしかして増えるかもしれません。けれどもどんなに努力しても私たちは、自分のいのちをコントロールすることはできません。実はそのことを私たちは知っています。でも、それを認めてしま

うと急に恐ろしくなるので、考えようとはしません。あたかも自分がいつまでも生きている。そんなことを前提にして物事をいつも考えています。

あと一ヶ月あまりで今年も終わり、新しい年になります。まじめな方ならばもう来年の計画を立てているでしょう。計画を立てるときの大前提は何でしょうか。来年も自分が健康で生きている。そのことが大前提です。特殊な事情がない限り、来年自分が死ぬことを前提に計画を立てる人はいません。でも来年も自分が健康であるのかどうか、よく考えればほとんど根拠はありません。このたとえ話に出て来る男のことを笑えません。私たちも同じことをしているのです。

3 神の前に富む

(1) 「自分のために」ではなく

そんな私たちにイエスは言われます。「自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。」自分のためにたくわえる、とあります。たしかにこの金持ちは、口癖のように何度も言っていました。原文を忠実に訳すとこうなります。17 節「私の作物を蓄えておく場所がない。」18 節。「私のあの倉を壊して。」「私の穀物や財産はみなそこにしまっておこう。」19 節。「私のたましいにこう言おう。」この金持ちがつぶやいていることばをよく見ると、いつも自分が中心です。私たちも同じことをしています。

しかしイエスはそのような生き方ではなく、神の前に富むことを勧めます。もし神の前に富むことができれば、いのちのことを心配する必要は全くなくなるのだと語ります。もし本当にそうなら、こんなすばらしいことはありません。でも、いったい神の前に富む

とはどのようなことなのでしょう。このことを考えていきます。

(2) 神は心配してくださる

このたとえ話から一つの大切なことが教えられます。私たちのいのちを御支配しておられるのは神だということです。私たちがいつどのようにして死ぬのか、すべては神の御心の中で決められている。

そう言いますと、こんな疑問が起きてきます。神が私たちが愛して下さっているというのなら、どうして私たちが病気や事故で死ぬことを許すのか。どうして、神は私たちのいのちをあるとき突然のようにとられるのか。神は愛の方だなんてとても信じられない。聖書の神は、非常に情け容赦のない方なのではないか。

確かにそのように見えることがあります。悪いことをしている人が健康で長生きをするように見えます。一方、こんなすばらしい人がなぜ死ななければならないのかと嘆くようなことがしばしば起きます。神は不公平なのではないかと、信仰をもつていても疑問に思うことがあります。

神はほんとうはどのような方なのでしょう。イエスは 15 節でこう語りました。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」

なぜこんなことを言うのですか。もし、神が私たちのいのちのことを何一つ心配する方ではなく、私たちを苦しめるために冷酷にいのちを取り上げるような方であるならこんなことを言うはずはありません。神が、私たちのいのちのことを心配してくださっているからこそ、丁寧にたとえ話を使いながら

語ってくださっているのではないですか。神は私たちのいのちのことを最も心配してくださっているのです。

(3) 神は喜んで与えてくださる

イエスは言われます。「人のいのちは財産にあるのではない。」どんなにお金を積んだとしても、世界中のすべての財産を手に入れたとしても、永遠のいのちを手にすることはできません。それはわかります。わからないのは、では、人のいのちはどこにあるのかということです。そして、神の前に富むということはいったいどのようなことなのか。そのことを知りたいと願います。

今さら言うのもばかげたことかもしれませんが、私たちは人が死ぬということが当たり前の世界に生きています。人が死ぬということは常識中の常識です。しかし聖書によれば、これは実は大変異常な状態なのです。非常識な状態と言ってもいいでしょう。神が私たちを造ってくださった最初のとき、この世界のどこにも死というものはありませんでした。それなのにどうして人は死ぬようになったか。アダムとエバが神に背き、神から離れ、神を捨てた瞬間、人は死ななければならなくなりました。これを聖書では罪と言っています。その罪についてパウロはこう言っています。「罪から来る報酬は死です。」罪の結果、すべての人間は死ななければならなくなりました。これが私たち人間の今の姿です。

もし聖書がそこで終わっていたのなら、何の希望もありません。結局、どうせ死ぬことが決まっているのだから、今日一日安心して、食べて、飲んで、楽しめ、ということにしかなりません。ところが、パウロは同じ箇所で

こう続けました。「しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」(ローマ6章23節)

先ほど、神は私たちのいのちのことを最も心配してくださる方だと言いました。どれくらい心配してくださるのでしょうか。高いところに座って、「心配していますよ」とことばだけを語り、それだけだったのか。いいえ、そうではありません。この方はじっと座っていることができません。神である方なのに、神の座を降りられ、人となられ、私たちと一しょに生活し、私たちがこの世で苦しむあらゆる苦しみを一しょに味わってくださり、人から馬鹿にされ、笑われ、あざけられ、裏切られ、怒りをぶつけられ、見捨てられ、罪のない方であったのに十字架で死なれました。

神である方が、なぜ十字架で死ぬのですか。私たちが苦しめているこの罪をこの方が全部一身に背負ってくださって、神のさばきを受けるためでした。私たちが死の苦しみから解放するためでした。神は私たちを救うために、喜んでご自分のいのちを与えようとされたのでした。神はそこまで心配するのです。

最後にまとめましょう。「神の前に富む」とはどういうことか。私たちは、本当はどんな姿をしているのか、まずそのことを考えましょう。私たちは富んでるのか。それとも貧しいのか。そう言われると、貯金通帳の金額や持っている土地や建物のことを思い浮かべます。それが私たち人間の富んでいるとか貧しいと言うことを測る物差しだからです。

ところが神の物差しはまったく違います。その人のいのちをご覧になります。死から逃れることができないで苦しんでいる私たちをご覧になり、何と貧しい中にいるのかと、

心を痛められます。

だから神の前に富む者になりなさいと言われます。何か良いことをして、良い人間になって、何かをたくさん献げることが、神の前に富むということなのでしょう。そうではありません。そもそも自分の力で富むことはできないのです。その代わり、神が私たちに富ませてくださるのです。

その時何か条件があるのでしょうか。いいえ、条件はありません。私たちを救うために主イエスが、十字架でいのちを投げ打ってくださった。それは作り話でもなんでもない。まさに事実であることを、そのまま信じるだけです。もしあなたがそのことを受け入れることができたならあなたは永遠のいのちを手にすることになる。そのとき、あなたは神の前に富む者と呼ばれる。

私たちが富む者となるようにと、神ご自身が十字架で貧しい者となられました。神はそこまでへりくだり、私たちにいのちを与えようとされています。主の御名をあがめます。